



❖ 基礎研究部門 ❖

国際研究集会

『心性罪福因縁集』の成立基盤とその影響

2024 年 7 月 7 日（日）10:00～17:00

龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室



質疑応答の様子

❖ 概 要 ❖

2024 年 7 月 7 日（日）に、龍谷大学世界仏教文化研究センター（RCWBC）基礎研究部門と早稲田大学総合研究機構日本宗教文化研究所（以下早大宗文研）との合同主催で、龍谷大学大宮学舎にて、国際研究集会『心性罪福因縁集』の成立基盤とその影響」が開催された。集会は基調講演 3 本（午前の部）および研究発表 5 本（午後の部）からなる。それぞれの概要は下記の通りである。

吉原浩人（早稲田大学文学学術院教授・同所長）が基調講演『心性罪福因縁集』研究の現状と課題—宝誌説話を例に一—において、『心性罪福因縁集』の最新の研究成果・現在の研究課題を紹介し、本集に収録される宝誌の説話 4 話の共通構造を分析した。

李銘敬（中国人民大学教授・早大宗文研招聘研究員）が基調講演「五代・北宋の仏教説話集と日本への影響」において、日本成立の『心性罪福因縁集』と同時代の中国において、どのような説話が流布していたのか、またそれが『心性罪福因縁集』所収説話との関連や、現在の研究状況などを含めて概観した。

阿部泰郎（名古屋大学名誉教授・RCWBC 招聘研究員・早大宗文研招聘研究員）が基調講演「創作説話集としての『心性罪福因縁集』—西行仮託『撰集抄』から読み直す—」において、『心性罪福因縁集』と『撰集抄』の、多元的共通点を検出することによって、前者を踏まえて、後者が創り出されたという仮説を提示した。

崔鵬偉（RCWBC 博士研究員・早大宗文研招聘研究員）が研究発表『心性罪福因縁集』における『宗鏡録』の受容」において、『心性罪福因縁集』巻中第八話における『宗鏡録』の受容を中心に考察することによって、『心性罪福因縁集』の成立には、永明延寿『宗鏡録』をはじめ、宋代の文献も関係していることを証明した。

八木徳俊（早大宗文研 RA）が研究発表『心性罪福因縁集』における「理觀念仏」において、事・理の念仏が説かれている『心性罪福因縁集』上巻第七話「念仏」について、その理觀念仏に焦点を当てて、それが中国趙宋天台外派の思想との関連を考察した。

松尾善匠（東京大学大学院人文社会系研究科博士後期課程・早大宗文研研究補助者）が研究発表『心性罪福因縁集』における「事念仏」と永観への影響」において、『心性罪福因縁集』上巻第七話「念仏」の事念仏に焦点を当てて、それが平安後期の三論僧永観に与えた影響を『往生拾因』等との比較によって整理した。

田中亜美（早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程・早大宗文研 RA）が研究発表『心性罪福因縁集』下巻「法崇和尚誠弟子語」における不動真言」において、不動明王信仰に関

する儀軌や説話等との比較から、不動真言に関する『心性罪福因縁集』下巻第二話の記述がどのように形成されたのか、また当該話および『心性罪福因縁集』全体において不動真言はどのような意味を持つのかについて報告した。

櫻本香織（早稲田大学文化構想学部助手・早大宗教文化研究所員）が研究発表「『心性罪福因縁集』上巻「打囲碁二老僧」における『忘憂清楽集』の影響」において、院政期には、北宋に編纂された現存最古の囲碁の理論書『忘憂清楽集』にも収載される、古代から唐、あるいは宋代に至るさまざまな時代の囲碁に関する書物が断片的に伝来し、『心性罪福因縁集』巻上第二話に受容された仮説を提示した。

最後に、柳幹康（東京大学東洋文化研究所准教授・花園大学国際禅学研究所副所長）がコメンテーターとして、3本の基調講演、および5本の研究発表に対して、多角的なコメントと質問を行った。『心性罪福因縁集』の撰者は永明延寿に仮託されているが、はたして延寿の思想と接点はあるのか、柳准教授のコメントにより、かなり見えてきた部分があった。



会場の様子